

プレジャーボートのバッテリーに注意

【平成29年6月】

⚡ バッテリー上がりによる事故が増加しています！

【事件事例】

要注意

海上で機関を停止し、漁探や電動リールを使用しながら釣りをしていたところ、バッテリーが上がり帰港できなくなった。

- ▶ 平成27年は33件、平成28年は51件発生！



機関を停止した状態で作業や釣りをする場合は、バッテリーに負荷のかかる機器の使用は控えましょう！（アクセサリ専用バッテリー等を活用して下さい。）

⚡ バッテリーのチェック方法について

● 出港前には必ずバッテリーのチェックをしましょう！

- ① ケーブル端子接続部の緩みや腐食の点検
- ② 電圧の確認（バッテリーチェッカーで確認！：12.6V以上で良好）
- ③ 液量の確認（液量をUpper LevelとLower Levelの間に保ちましょう）
- ④ 電解液の比重確認（1.25以上で良好）

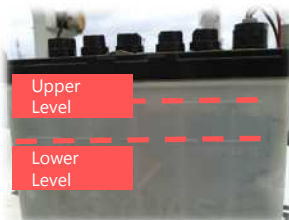
※ ③、④については、メンテナンスフリーのバッテリーでは点検できません



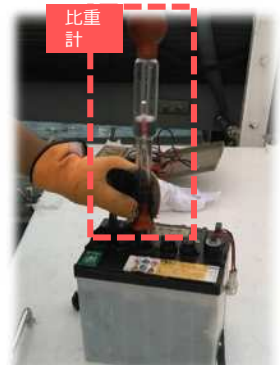
①端子接続部の確認



②電圧の確認



③液量の確認



④電解液の比重確認

● おかしいと思ったら・・・

- ▶ 充電や蒸留水の補充、バッテリーの交換を行いましょう！
⇒作業を行う際は、バッテリーの取扱説明書に従って作業しましょう。
※メンテナンスフリーのバッテリーには、蒸留水の補充はできません。

⚡ バッテリーの交換時期等について

● バッテリーの寿命について

- ▶ バッテリーは消耗品です。2～3年での定期的な交換を実施しましょう。
⇒同じバッテリーでも使用環境・頻度等の要因で寿命は変化します。

● アクセサリ専用のバッテリーを搭載することを推奨します。

- ▶ 「ジャンプスターター」（バッテリーが上がった際機関を始動できる機器）を船内に備え置くことも有効です。